授与番号　甲第1721号

論文内容の要旨

Predictors for the length of stay of emergency psychiatric patients
（精神科救急外来受診者の入院期間（Length of stay；LOS）の予測因子）
（小泉文人，大塚耕太郎，遠藤仁，本多笑奈，佐藤広隆，中村光，酒井明夫）
（Journal of Iwate Medical Association　69巻，3号 平成29年8月掲載）

Ⅰ．研究目的

精神科救急サービスにおいて、入院患者の入院期間（Length of stay，以下LOS）を個々の症例において予測することは，患者の受け入れや医療環境の設定，入院治療の計画立案において重要である．これまで精神科の一般的な入院におけるLOS長期化の要因としては，自殺念慮，未就労，薬剤の副作用，原疾患の未治療歴，女性，身体拘束，電気けいれん療法，統合失調症・他の精神病性障害，症状の重症度，身体合併症，物質依存の合併などが指摘されてきた．しかし，これまでの報告は単科精神科病棟や総合病院精神科におけるLOSに限定されており，精神科救急サービスを経由した精神科病棟入院患者のLOSに関する詳細な検討はまだなされていない．

本研究では，救急外来を介し精神科病棟へ入院となった患者について精神科救急受診時点での臨床評価とLOSを調査し，LOSの予測因子を同定し，適切な入院医療計画の策定に役立てることを目的とした．

Ⅱ．研究対象ならびに方法

2003年1月1日から2010年12月31日までの8年間に，岩手県高度救命救急センターおよび岩手医科大学附属病院一次二次外来を受診した250,625件を母集団とした．その中の精神科救急対応患者13,899件のうち，救急病棟入院849件，帰宅10,423件，他病院や他病棟へ入院，死亡，外来待機の転帰をとった483件を除外し，救急外来から精神科病棟に直接入院した2,144件を対象として，入院期間の長期化，あるいは短縮に関連する予測因子を検討した．統計解析として，LOSと関連する因子を明らかにするために，各調査項目を説明変数，入院日数を従属変数として線形重回帰分析（ステップワイズ法）を行った．統計処理はSPSS 22.0 J for Windowsを使用し，いずれの検定においても有意水準は5%未満とし，有意確率を数字で示した。データは個人が特定可能な項目は除外し、データの管理や処理の過程でも個人情報の保護に配慮した．なお、本研究は岩手医科大学医学部倫理委員会の承認をうけている．

Ⅲ．研究結果

全対象（2,144 件）のうち、男性は 36.5%，平均年齢は 38.9±16.8 歳，　センター受診者は 42.4%であり、救急外来受診時の主訴は頻度順に自殺関連行動（47.7%），身体的愁訴（21.1%），精神運動興奮（8.7%），精神病症状（6.9%），不安（4.0%），希死念慮（3.8%），アルコール関連（2.1%），焦燥感（1.7%），不眠（1.4%），その他（1.3%），抑うつ気分（0.4%）であった．また、対象の LOS の平均値は 22.2±68.8 日であった．

線形重回帰分析の結果，LOS に関して有意な正の標準化変数を持つ因子としては，男性（β=0.143），主訴の精神病症状（β=0.072），主訴の不眠（β=0.047），状態像の幻覚妄想状態（β=0.161）の 4 項目が抽出された．また，負の標準化係数を持つ因子として ICD 診断の F2（β=－0.077），就労あり（β=－0.062），向精神薬投与あり（β=－0.071），身体的処置あり（β=－0.081），入院形態の任意入院（β=－0.058）の 5 項目が抽出された．

Ⅳ．結　　語

精神科救急の現場では，幻覚妄想や昏迷など患者本人からの情報が不十分な場合や，受診前情報が乏しいケースも多く，その入院期間の予測が困難である．本研究では，精神科救急サービスを経由し，総合病院精神科病棟へ入院となった精神科救急患者の入院期間について検討した．その結果，長期化因子として男性，主訴の精神病症状，状態像の幻覚妄想状態，主訴の不眠の 4 項目，短縮因子として ICD 診断の F2，就労していること，向精神薬投与，身体的処置，自発的入院の 5 項目が抽出された．これらは性別，精神症状，精神科診断，社会生活機能，治療状況，治療における自発性という次元に要約することができる．本研究の結果をもとに，入院期間を予測し効率的な介入を実施することが期待される．

論文審査の結果の要旨

論文審査担当者
主査　教授　眞瀬　智彦（災害医学講座）
副査　教授　坂田　清美（衛生学公衆衛生学学講座）
副査　講師　八木　淳子（神経精神科学講座）

論文の要旨

精神科救急を経由し，総合病院精神科病棟へ入院となった患者について，患者の臨床評価と入院期間を調査し，入院期間に関わる因子を同定することで適切な入院医療計画の策定に役立てることを目的とした．　岩手県高度救命救急センターおよび岩手医科大学附属病院一次二次外来を受診した 250，625 件を母集団とし，精神科救急対応患者 13，899 件の中で精神科病棟に直接入院した患者 2，144 件を対象とし，入院期間の長期化，あるいは短縮に関連する予測因子を検討した．長期化に関連する因子として男性，主訴の精神病症状と不眠、状態像の幻覚妄想状態の 4 項目，短縮に関連する因子として ICD－10 診断の F2，就労していること，向精神薬投与，身体的処置，自発的入院の 5 項目が抽出された。本研究により精神科救急サービスを利用した総合病院精神科入院患者の入院期間に関連する因子は，性別，精神症状，精神科診断，社会生活機能，治療状況，治療における自発性と要約することができた．

本論文は，精神科救急を経由し総合病院精神科病棟へ入院となった患者の入院期間を予測し効率的な介入に結びつく研究であり，学位に値する論文である．

試験・試問の結果の要旨

Predictors for the Length of Stay (LOS) of Emergency Psychiatric Patients（精神科救急外来受診者の入院期間（Length of stay；LOS）の予測因子）について試問を行い，適切な解答を得た．学位に値する学識を有していると考える．

参考論文

1）Aripiprazole と valproate の併用が有効であった双極性感情障害の 1 例(水谷歩未，他 10 名と共著)．
臨床精神薬理 16 巻，7 号．：p1051-1055.
2）当院救命救急センターにおける双極性感情障害への対応(三條克巳，他 6 名と共著)．
臨床精神医学 43 巻，5 号．：p691-696.
3）Consideration on the new psychiatric emergency cases related to the Great East Japan Earthquake
（東日本大震災関連の精神科救急初回受診例に関する検討）（吉岡靖史，他 9 名と共著)．
岩手医学誌 67 巻，3 号．：p101-117.